

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-9345

(43)公開日 平成5年(1993)2月9日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

A 4 7 B 88/04  
88/00

識別記号

庁内整理番号

A 6578-3K  
B 6578-3K

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数15(全 4 頁)

(21)出願番号 実願平4-35263

(22)出願日 平成4年(1992)4月28日

(31)優先権主張番号 A-902-91

(32)優先日 1991年4月30日

(33)優先権主張国 オーストリア(AT)

(71)出願人 391013232

ユリウス・ブルム・ゲゼルシャフト・ミッ  
ト・ベシュレンクテル・ハフツング

JULIUS BLUM GESELLS  
CHAFT MIT BESCHRANK  
TER HAFTUNG

オーストリア国 アー6973 ヘキスト、イ  
ンドウストリーシュトラーセ 1

(72)考案者 クラウス・プリューシユトレ

オーストリア国 アー6973 ヘキスト、リ  
ュツテネン 5

(74)代理人 弁理士 萩野 平 (外3名)

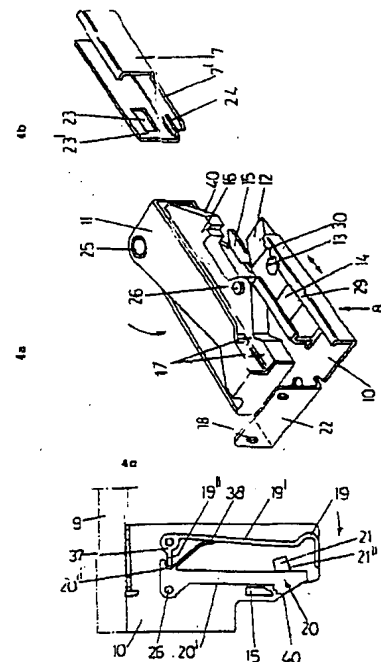
最終頁に続く

(54)【考案の名称】 ひきだし用の組付け具

(57)【要約】

【目的】 ひきだしを引出しレール(7)に容易に着脱できると共に思わぬ脱落を防止できる組付け具(8)を製作する。

【構成】 組付け具の水平旋回可能をフックが引出しレールのスロットに係止される。フックは係止状態でこの旋回軸とは離れた方の係止個所の近くにおいて組付け具の組付け板に支えられる。



## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 ひきだし用の組付け具であって、ひきだしの両横にひきだし案内具の引出しレールが取りはずし可能に固定されていて、ひきだしに組付け具が固定されており、組付け具は鉛直状の旋回軸を中心として旋回可能なフックを介して前記引出しレールの切欠きに係合して引出しレールの係止縁に接触している形式のものにおいて、フック(16, 20)は、前記旋回軸(26)側とは反対側の、引出しレール(7)の係止縁(23')との接触個所の近くにおいて、ひきだし又はひきだしに固定された組付け具(8)の組付け板(10)に支えられていることを特徴とする、ひきだし用の組付け具。

【請求項2】 組付け板(10)がフック(16)を支える円弧状の縁部ウェブ(21)を有している、請求項1に記載の組付け具。

【請求項3】 フック(16)がその端面によって組付け板(10)の縁部ウェブ(21)に支えられている、請求項2に記載の組付け具。

【請求項4】 フック(16, 20)がそのフック突起側に直角に突出した突出部(28)を有していて、この突出部(28)は組付け板(10)のスリット(21')内で案内されている、請求項1に記載の組付け具。

【請求項5】 フック(16, 20)がその旋回軸の個所に長穴(27)を有している、請求項1に記載の組付け具。

【請求項6】 フック(16, 20)が二腕レバーとして構成されており、フック(16)にそのフック突起(40)とは反対側の端部につまみ(11)が一体成形されていて、このつまみ(11)はフック(16)に対してほぼ平行に延びてフック(16)と共にJ字をなしているか、又はフック(20)に別体のL字状もしくはU字状のつまみ(19)が作用していて、フック(20)とつまみ(19)とが互いに反対方向へ旋回可能である、請求項1から5までのいずれか1項に記載の組付け具。

【請求項7】 フック(20)に、つまみ(19)を押す弾性的な舌片(38)が設けられている、請求項6に記載の組付け具。

【請求項8】 組付け板(10)に剛性的なフック(15)が設けられていて、このフック(15)は組付け状態において引出しレール(7)の1つの水平ウェブの下へ入り込んでいる、請求項1から7までのいずれか1項に記載の組付け具。

【請求項9】 組付け板(10)に1つのキー(14)が支承されている、請求項1から8までのいずれか1項に記載の組付け具。

【請求項10】 キー(14)が引出しレール(7)の縦方向で押しずらし可能である、請求項9に記載の組付け具。

【請求項11】 組付け板(10)に1つのウェブ(29)が設けられており、このウェブ(29)はキー(14)を保持していて縁部にラック区分(30)を有しており、このラック区分(30)に隣接してキー(14)内に十字ねじ回しを受容するための穴(13)が形成されている、請求項10に記載の組付け具。

【請求項12】 キー(14)が1つの可撓の区分(31)を有しており、この区分(31)はひきだしを開ざした際に支持レール(6)のすぐ上側に位置するか又はこの支持レール(6)に接触し、組付け板(10)に1つの突出部(34)が設けられており、この突出部(34)に前記区分(31)がキー(14)の押しずらしに伴って接触する、請求項10に記載の組付け具。

【請求項13】 組付け板(10)が1つの穴(33)を有しており、この穴(33)へキー(14)の可撓の区分(31)の突起(32)が、引出しレール(7)へキー(14)が接触していない場合、嵌まっている、請求項11又は12に記載の組付け具。

【請求項14】 つまみ(11)が一体成形されているフック(16)のアームに可撓個所(17)が設けられている、請求項6に記載の組付け具。

【請求項15】 組付け板(10)が1つの固定用ウェブ(22)を有していて、この固定用ウェブ(22)を介して組付け板(10)がひきだしの正面板(9)に固定可能である、請求項1から14までのいずれか1項に記載の組付け具。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の組付け具を備えたひきだしの側面図である。

【図2】 図1中のBの方向で背後から示す断面図である。

【図3】 図1中のAの方向で下から示す断面図である。

【図4】 4aは、本考案の組付け具を下から見た斜視図である。4bは、本考案の組付け具を下から見た斜視図である。4cは、本考案の組付け具の下面図である。

【図5】 フックの平面図である。

【図6】 フックの一実施例の縦断面図である。

【図7】 図6とは別の実施例の縦断面図である。

【図8】 高さ調節後の組付け具を示す側面図である。

【図9】 高さ調節なしの状態での組付け具を示す側面図である。

## 【符号の説明】

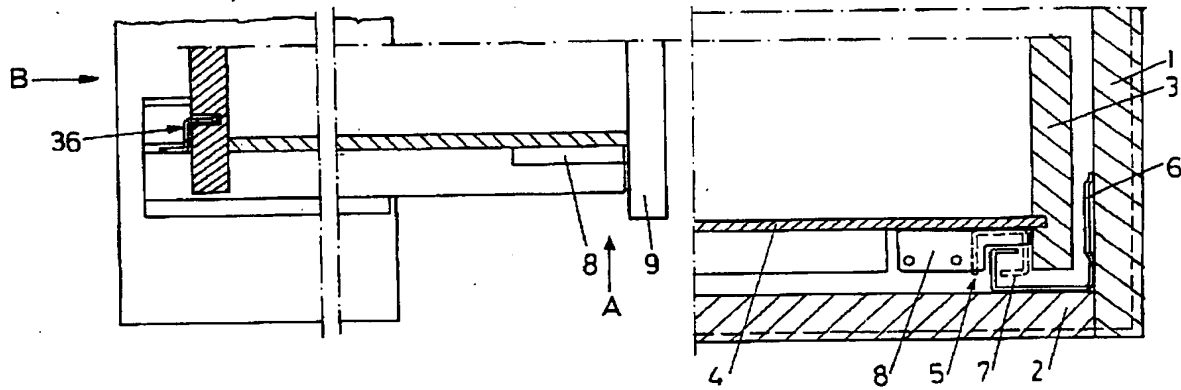
- 1 家具の外わく側壁
- 2 外わく底
- 3 ひきだし側壁
- 4 ひきだし底
- 5 引出し案内具
- 6 支持レール
- 7 引出しレール
- 8 組付け具

9 正面板  
10 組付け板  
11, 19 つまみ  
12 キー面  
14 キー

16, 20 フック  
21 縁部ウェブ  
21' スリット  
23 スロット  
25, 26 軸

【図 1】

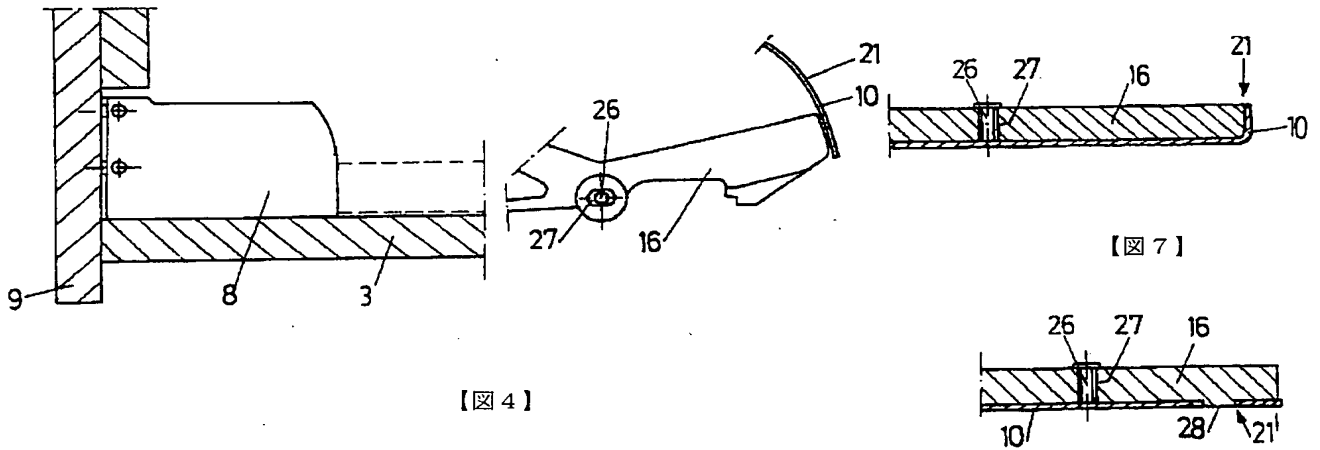
【図 2】



【図 3】

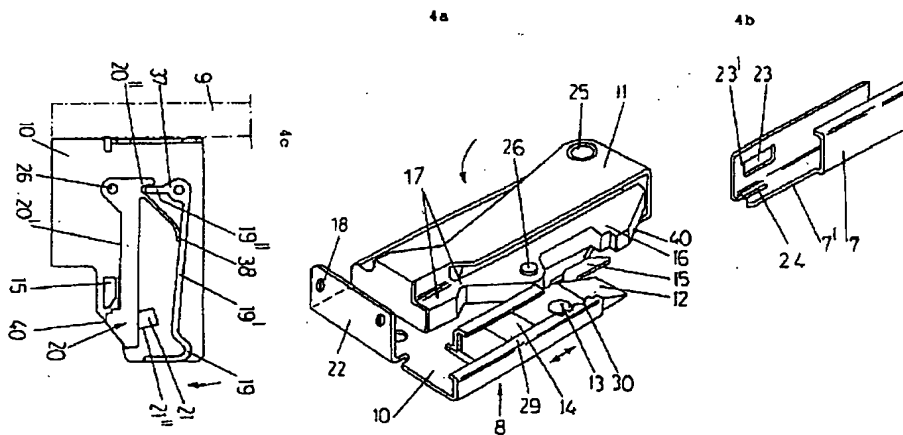
【図 5】

【図 6】

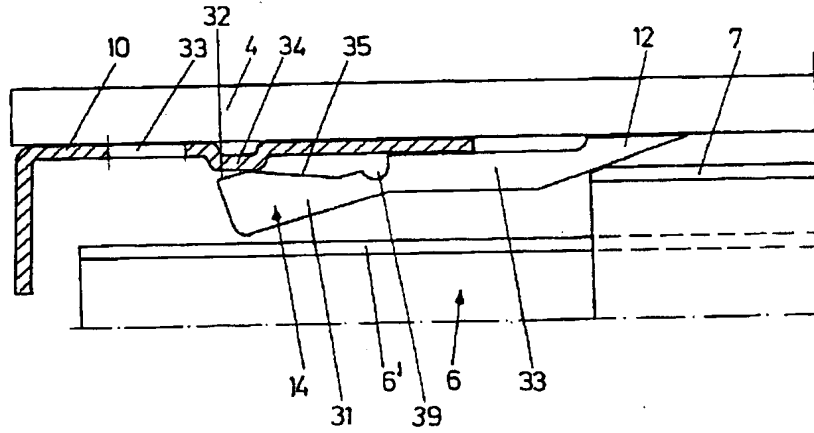


【図 4】

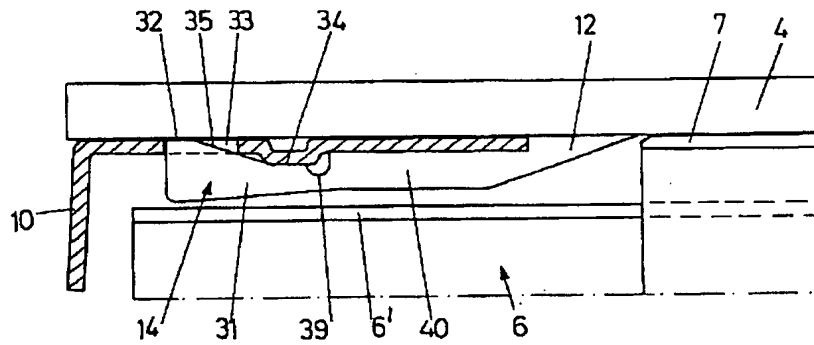
【図 7】



【図8】



【図9】



フロントページの続き

(72) 考案者 エリツヒ・レーク  
オーストリア国 アー6973 ヘキスト、キ  
ユツフエルシュトラッセ 7

## 【考案の詳細な説明】

## 【0001】

## 【産業上の利用分野】

本考案は、ひきだし用の組付け具であって、ひきだし両横にひきだし案内具の引出しレールが取りはずし可能に固定されていて、ひきだしに組付け具が固定されており、組付け具は鉛直状の旋回軸を中心として旋回可能なフックを介して前記引出しレールの切欠きに係合して引出しレールの係止縁に接触している形式のものに関する。

## 【0002】

特に、本考案は、引出しレールと支持レールとが分離不能なひきだし案内具を備えているひきだしに関する。一般にこの種のひきだし案内具においては、ころ部材がキャリッジ内に支承されている。

## 【0003】

## 【従来の技術】

従来2種の引出し案内具が知られており、これらの引出し案内具の場合、ころ部材は直接レールには固定されてなく、固有のキャリッジに配置されている。最もよく知られている方のひきだし案内具はいわゆるボールころひきだしであって、引出しレールと支持レールとの間の荷重伝達が鋼球を介してなされる。鋼球自体はボールケージとして構成されたキャリッジ内に保持されている。

## 【0004】

別のひきだし案内具は最近市販されるに至ったもので、円筒ころを有していて、これらの円筒ころは、レールに直接支承されている通例のものと同じ形式である。このころはやはりボールと同様にキャリッジ内に保持されている。キャリッジ自体は力の伝達を行なわない。

## 【0005】

ところで、引出し案内具全体を家具外わく内に組み付け、次いでひきだしを懸架することが可能な形式のひきだし並びに引出し案内具が知られるに至っている。

このような形式のものは、例えば掃除する目的でひきだしを簡単に取り出すこ

とも可能にする。

【0006】

この種の例がオーストリア国特許第384535号明細書およびドイツ国実用新案第8903741号明細書に示されている。

【0007】

【考案が解決しようとする課題】

本考案は、引出し案内具へのこの種のひきだしの着脱を容易にすることを課題とする。

この場合、ひきだしは一面において容易に引出しレールに係止可能であつてかつ容易にその係止を解除可能であるようにする必要がある。他面においては、引出しレールにおけるひきだしの保持が充分確実で、引出しレールからのひきだしの思わぬ脱落が絶対的に防止されねばならない。

【0008】

【課題を解決するための手段】

このような課題を本考案は次のようにして解決した。

すなわち、組付け具のフックがその旋回軸側とは反対側の、引出しレールの係止縁との接触個所の近くにおいて、ひきだし又はひきだしに固定された組付け具の組付け板に支えられているようにしたのである。

【0009】

重要な点は、フックが旋回軸に支えられ、その結果衝撃的な動きに伴ってレールからはずれてしまうことにならないのではなくて、旋回軸から離れている前部のフック突起の個所に支えられているという点である。

【0010】

一実施態様によれば、組付け板がフックを支える円弧状の縁部ウェブを有しており、この縁部ウェブにフックの端面が支えられる。

別の実施態様によれば、フックがそのフック突起にこのフック突起に対して直角をなす突出部を有していて、この突出部が組付け板のスリット内で案内されている。

【0011】

以上いずれの場合もフックの直接支持に係止個所の近くでなされる。

【0012】

フックが二腕レバーとして構成されていると有利である。この場合の一実施態様によれば、フックのフック突起とは反対側の端部に1つのつまみが一体成形されていて、このつまみはフックとほぼ平行に延びていてフックと共にU字をなしている。この二腕レバーには可撓個所が設けられており、これによって、つまみへ押し力を加えた場合レバーが弾性変形し、その結果フックは引出しレールにおける係止部から転位する。

【0013】

別の実施態様によれば、フックに別体のL字状又はU字状のつまみが作用していて、このつまみは組付け板上に支承されており、フックとつまみとが互いに反対方向へ旋回可能である。

【0014】

この実施態様は操作性の改良をもたらす。というのは、つまみの自由端部をひきだし横へ向かって押し動かすことができるからである。この場合フックは逆方向へ動く。組付け具はひきだしの底の下、それもひきだし底がひきだし側壁と共に形成するコーナー部分に位置しており、その結果この実施態様が組付け具への接近の容易さを有することが判った。

【0015】

本考案の別の実施態様の場合、組付け板に1つの剛性的なフックが設けられており、このフックは組付け状態では引出しレールの1つの水平ウェブの下へ入り込む。このフックによって、ひきだしは強い力が加えられたとしても引出し案内具の引出しレールから思わぬ脱落を生ずることはない。

【0016】

組付け板上には、引出しレールの縦方向で押しずらし可能な1つのキーが配置されている。このキーは一面において支持ブロックとして役立てられる。すなわち、ひきだしが家具外わく内へ押し込まれた際このキーは外わく側の支持レール上に乗り、これによってひきだしの安定した保持を保証する。また、他面においてこのキーはひきだしの高さ調節に使われる。すなわち、キーのくさび状のキー

面を引出しレールの水平ウェブ上へ押しずらすことによってひきだしは持ち上げられることになる。

#### 【0017】

##### 【実施例】

次に、図面に示した実施例に従って本考案を説明する。

図中では、家具の外わく側壁が符号1で、外わく底が符号2で示されている。ひきだし側壁は符号3で、ひきだし底は符号4で、ひきだしの正面板は符号9でそれぞれ示されている。ひきだし底4の下には引出し案内具5が配置されている。この引出し案内具5は、ひきだし両側において外わく側壁1に固定されて支持レール6と引出しレール7とから成っており、この引出しレール7にひきだしが係止されている。支持レール6と引出しレール7との間には、ころが支承されたキャリッジが配置されている（図示せず）。ひきだし底4の下には引出しレール7の横もしくは上側に本考案の組付け具8が位置している。引出しレール7はその後端部に1つのフック36を有しており、このフック36はひきだしの側壁3又は後壁の孔に嵌まっている。ひきだしは正面板9のところで本考案の組付け具8を介して引出しレール7に連結される。

#### 【0018】

組付け具8は組付け板10を備えていて、この組付け板10は前端に屈折したウェブ22を有している。このウェブ22は固定用ウェブとして使われ、ねじを通す穴18を有している。ねじによって組付け具8が正面板9に締付け固定される。組付け板10はまた旋回可能なフック16又は20、つまみ11又は19、キー14を有している。

#### 【0019】

ひきだしを組み付けるため、つまり、ひきだしを引出しレール7上に位置固定するためには、ひきだしを引出しレール7上へ乗せて後方へ押しずらし、引出しレール7のフック36をひきだしに係合させればよい。この場合、ひきだしが引出しレール7上でこの最後方の位置を占めると、組付け板10の旋回式のフック16又は20が引出しレール7のスロット23に係合する。これによって引出しレール7はひきだしと連結される。というのは、もはやひきだしは押しずらされ



ず、フック 36 からはずれることがないからである。

#### 【0020】

組付け板 10 にはフック 15 が設けられており、これらのフック 15 は引出しレール 7 の水平ウェブ 7' の下へ係合する。これによってひきだしは上へ持ち上がってしまうことはない。引出しレール 7 の前端部には Y 字状のスリット 24 が形成されており、これに対応して組付け板 10 にはウェブ状の突起が設けられている。このウェブ状の突起がスリット 24 に嵌まり込めば、各引出しレール 7 がひきだしに対して横方向でも位置ぎめされる。

#### 【0021】

図 4 の 4 a および 4 b に示す実施例の場合、つまみ 11 がフック 16 に一体成形されている。フック 16 は二腕レバーとしてつくられていて弾性的な可撓箇所 17 を有している。つまみ 11 は軸 25 に支承されている。

組付け具 8、ひいてはひきだしを引出しレール 7 からはずすには、つまみ 11 を図 4 の 4 a および 4 b 中の矢印に示す方向へ押し動かす。これによって、軸 26 に支承されているフック 16 の正面板 9 側のレバーアームが可撓箇所 17 において曲げられ、引出しレール 7 のスロット 23 に係合していた突起 40 がはずされる。

#### 【0022】

例えばひきだしへ強い引き力が加わった場合にもフック 16 もしくは突起 40 がスロット 23 からはずれてしまうことがないようにするため、フック 16 は直接軸 26 には支えられていない。すなわち、フック 16 は軸 26 の範囲に図 5 ～ 図 7 に示すように長穴 27 を有しており、フック 16 の支持は、引出しレール 7 の係止縁部にフック 16 が接触した状態で突起 40 の直近で行なわれる。係止縁部 23' はスロット 23 の縁部によって構成される。

#### 【0023】

図 6 に示す実施例においては、フック 16 が直接その自由端部が組付け板 10 の端部ウェブ 21 に接触することによって支えられる。端部ウェブ 21 の代りに、組付け板 10 にスリット 21' を形成し、このスリット 21' にフック 16 の突起 28 を係合させてもよい。この場合スリット 21' および突起 28 の両方の

縁部がフック 16 のための支持部をなす。

【0024】

図 4 の 4 c に示す実施例は図 4 の 4 a および 4 b の場合と基本的には同じ機能のものである。ただし、フック 20 をスロット 23 からはずすためには、つまみ 19 の正面板 9 から離れている方の端部を矢印方向へ押す。この場合つまみ 19 は軸 37 上に支承されていて二腕式レバーとして構成されており、一方のレバーアームが本来のつまみ部分 19' をなし、他方のレバーアーム 19'' が直角に延びている。フック 20 もやはり図 4 の 4 a および 4 b の場合同様に二腕レバーとして構成されているが、一方のレバーアーム 20'' は本来のフック 20 をなすレバーアーム 20' に対して直角をなしている。つまみ 19 が図 4 の 4 a および 4 b 中の矢印方向へ動かされると、つまみ 19 のレバーアーム 19'' がフック 20 のレバーアーム 20'' を押してスロット 23 からはずす。連結状態ではフック 20 の支持が突起 28 を介してスリット 21' の縁部 21'' においてなされる。フック 20 はまた一体に設けられた弾性的な舌片 38 を有していて、この舌片 38 はつまみ 19 を支えている。

【0025】

引出しレール 7 に対するひきだしの高さ位置を調整できるようにするために、組付け板 10 にキー 14 が設けられている。このキー 14 は前部のキー面 12 を有し、このキー面 12 はひきだし底 4 と引出しレール 7 の上部の水平ウェブとの間へ挿入することができる。キー 14 はまた 1 つの穴 13 を有していて、組付け板 10 のウェブ 29 によって片側に沿って保持されている。ウェブ 29 の縁部にはラック区分 30 が形成されている。ねじ回しを穴 13 に差し込んで回せば、ねじ回しがラック区分 30 とがかみ合い、キー 14 を二重矢印の方向で押しずらすことができる。

【0026】

キー 14 が高さ調節に利用されない場合、つまりひきだし底 4 が直接引出しレール 7 上に位置している場合、図 9 に示す位置を占める。この場合、キー 14 は後部 31 を有していて、この後部 31 は曲げ個所 39 を介して前部 40 に結合されている。後部 31 には突起 32 が設けられていて、この突起 32 は組付け板 1

0の穴33に嵌まっている。組付け板10は穴33よりも前の個所にキー14へ向かって突出した突出部34もしくは隆起部を有している。キー14の後部31は後部のキー面35を有している。

【0027】

ひきだしの高さを調整する必要があるれば、キー14が引出しレール7へ向かって動かされ、前部のキー面12がひきだし底4と引出しレール7との間へ押し込まれる。同時に後部31が組付け板10の穴33からはずれてキー面35が突出部34に接触する。これによって、図8に示されているように、後部31は組付け板10によって押し下げられることになる。このような形式で後部31は家具外わく内へひきだしを挿入した際に支持レール6の上側の水平ウェブ6'に乗る支持ブロックとして役立てられる。この支持ブロック7の機能は高さ調節によって支障を生ずることはない。